

# 地元こだわった商品開発の支援

住所	岩手県大船渡市大船渡字永沢38-7	資本金	1,000万円
代表者	田村 満	従業員数	3名
創業年	昭和42年	売上高	635万円(平成25年2月期)
業種	鮮魚・スラリーアイスの卸・小売		
TEL	0192-55-3990	URL	http://manpukufarm.co.jp/三陸けせん家/

## 事業概要(被災前)

・東日本大震災前は、大船渡市大船渡地区の魚市場前(本社)と大槌町吉里吉里海岸近くの2ヶ所でガソリンスタンドを経営



本社前から見た、魚市場(再建後)、港

## 被災概要

・震災の津波により、2ヶ所のガソリンスタンドは全壊・流出



大槌町の被災状況



大船渡市大船渡地区の被災状況

## 復興に向けた状況や課題

- ・ガソリンスタンドの再開を断念した代わりに進出した製氷業経営の行き詰まり(同社が注力したかったスラリーアイスの需要が伸びない。)
  - ※スラリーアイス:1mm程度の微粒氷。鮮度維持に有効で、魚に傷がつきにくいというメリットがある一方、価格が高めになるデメリットがある。
- ・地元の復興の一助として、地元産の魚や野菜を使った新しい食品を開発したいとの漠然とした思いを具体的に展開できていない。



現在の製氷工場  
スラリーアイスのロゴが見える

## 支援テーマと内容

地元大船渡港に水揚げされた魚や大船渡産野菜などを素材とした、大船渡の復興に貢献できる新しい食品を開発し、県内外に販売したいという事業主の思いを叶えるための

1. 新商品の開発支援
2. 販路開拓の支援

### 地元こだわる商品開発



八木澤商店の味噌

八木澤商店の「おらほの味噌」

若手県産の大豆と若手県産の米で仕込んだお味噌です。  
アルコール添加をせず、加熱殺菌もしていない生味噌で、色に冴え、味に深みがあり熱を加えると芳香でまろやかな味わい。



三陸の魚



至高の「三陸の魚」

世界三大魚場・いわて三陸で水揚げされた魚を余す事無く使用。  
観潮と黒潮のぶつかるここ三陸では、温帯系の魚・寒帯系の魚が入り混じって水揚げされる。世界的にも珍しい場所となっております。

酔仙の「多賀多の酒かす」

陸前奥田の酒造から生まれた酒粕。特に「多賀多」を造る米は当市で子供達の教育の一環として、田植えから収穫まで子供達と一緒に造った「ひとめぼれ」を使用。



酒粕

酒粕

## 地元企業とのコラボ商品 味噌粕漬け 三陸けせん家「うみやあがすと」第一弾



贈答用の「うみやあがすと」

「うみやあがすと」とは気仙地方で「すごく美味しい」の意味。

三陸の新鮮な魚と、地元で活躍中の調理研究家小野寺恵氏、酔仙酒造の酒粕、八木澤商店の味噌、地元の食品製造会社・コマツ商店とのコラボ。衆栄商事は販売を担当する。

発表会や試食会の機会を活用して地元メディア(TV、新聞)にも取り上げてもらった。

### 支援の成果

#### 1. 新商品の開発支援

大船渡発の味噌粕漬「うみやあがすと」発売にあたり、企画段階から、変動費、固定費の分析、必要粗利等を基に助言を行い、適正販売価格を設定することができた。また損益分岐点の計算により、必要売上高、必要販売個数が明らかになり、目標が明確となった。

#### 2. 新商品の販路開拓支援

一貫したコンセプトからの商品づくり、価格設定、社長の人脈を最大限に活かしたチャネル、効果的なプロモーションや販売方法の指導により販売を順調にスタート。



写真人物は田村満社長

### 今後の事業展開

#### 1. 販路拡大

本格的な販売はこれから。各種展示会への出展や販売会の参加、ダイレクトメールの送付などによる販路の拡大。

#### 2. 協力会社・関連会社との連携強化

協力会社(酔仙酒造、八木澤商店、コマツ商店)と関係会社の農園「満腹農園」と連携した販路開拓と事業展開。

#### 3. 地元飲食店などとの連携強化

大船渡の割烹料理屋など連携し、味の改良、さらなる新商品の開発。

#### 4. 事業再構築

- ・被災したガソリンスタンドの復旧(グループ補助金)。
- ・不振である製氷(スラリーアイス)部門の見直しによる強化。
- ・衆栄商事全体の事業再構築。

### 事業者からのコメント

「地元、大船渡に水揚げされる鮮魚を利用した新商品を開発したい」という思いを、震災復興支援アドバイザーのご支援により、「うみやあがすと」として世に出すことができました。

本格的な販売はこれからスタートです。引き続き、機構の復興支援アドバイザーの支援をお願いします。

今後は、「うみやあがすと」を通じて、多くの方に三陸気仙を知ってもらいたい、そして地元で粕漬けの文化を根付かせたいと考えています。



秀栄商事株式会社 田村 満 社長

### 震災復興支援アドバイザーからのコメント

社長は「甚大な被害を被った地元三陸気仙地方を元気にしたい」との強い思いと使命感を持っておられました。

支援の初めに実施した「資源の棚卸」により、社長の人脈の広さと深さ、特色ある商品を製造販売する地元企業の存在、世界三大漁場と言われる三陸気仙沖から水揚げされる新鮮な鮮魚等を見出すことができました。そこで、恵まれた外部環境と当社独自の経営資源を融合させた新商品開発を提案。そこから、新鮮さを閉じ込めた「味噌粕漬(うみやあがすとシリーズ第1弾)」が生まれました。

被災地では特に「強みを持ち寄り」「連携により大きな価値を生み出す」ことの重要性が増えています。更に一致団結し、モデルケースとなるチームへ成長していきましょう!



震災復興支援アドバイザー 中小企業診断士 植松 正人